

【第5回】 ●日 時:平成21年11月7日(土) 13:05~15:50 ●場 所:「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」内、吉沢公民館 ●参加者:総数85名(地元、農大、平塚市、事務局ほか)

●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』あいさつ
(協議会 猪俣会長)

皆さん、こんにちは。今日は、非常に秋晴れの天候のもと、沢山の出席を頂きまして、第5回ワークショップが出来ますことを心からお礼を申し上げます。今回で5回目ですが、5月の第4回ワークショップに農作物の作付けをしたということで、皆さん非常に楽しみに、「どれだけ出来ているのかな」とお思いでしょうけれども、素晴らしいものが出来ているそうです。また、その前の第3回ワークショップで下草刈りをした箇所がございます。そこに、前回、植物が二十何種類増えていますという話でしたが、今回、どれだけ植物が芽生えているか、それも非常に楽しみです。今日は、平塚市まちづくり政策部、環境部さんからも参加を頂いております。これからも、我々は「産官学民」ひとつになって、一歩ずつ「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」の活性化に向けて一段ずつ上がっていきたくと思っています。これからも宜しくご協力の程をお願い致します。以上を持ちまして、挨拶にかえさせていただきます。今日は、どうぞご苦労様でございます。



●東京農業大学あいさつ(農大 麻生教授)

皆さん、こんにちは。本日、農大の学生は、一年生も含めて二十人強で参りました。今、若い人の中でちょっとした農業ブームでございまして、今年の春の入試は、他の大学では受験生がどんどん減っている中で、農大は割増えしました。農業活動を期待して入った学生が沢山いるという事でございますが、世田谷におりますと、なかなかそういう活動が出来ません。この様な機会が大変大事だと皆さん注目して参りましたので、どうぞ宜しくお願いします。来年度に向けての話ですが、農大の中に総合研究所というのがございます。学科あるいは大学の枠を越えて、「地域連携」あるいは「産官学共同」の研究をやっているのですが、そこに来年度から「地域再生研究部会」というものを立ち上げます。その中心となりますのが、この「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」のプロジェクトでございますので、来年新しい展開があるかと思っております。また皆さんにご協力頂きたいと思っています。学生の皆さんも今日は単なる農作業体験ではなくて、その様な新しい体験に向けたものの一つであるという事を認識頂いて、頑張ってくださいと思います。今日はどうぞ宜しくお願い致します。



●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 小林課長代理)

皆さん、こんにちは。今日は、これほど大勢の方々、このワークショップに参加されているところを見まして、本当に地域の熱い想いを、ひしひしと感じております。さて、この「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」なのですが、皆さんからご提案された「企画提案書」を拝見させて頂きました。環境に配慮した持続可能な土地利用を、管理システムをつくりながら、部会をつくられて、すごく活発に活動されているとお聞きしております。今後もその活動をどんどんどんどん広げて頂いて、活性化して頂けるといいなと思っております。平塚市としても、出来る限り講師の派遣等、色々バックアップしていきたいと思っておりますので、是非、申し出て頂ければと思っております。本日は、この様に、いい天気の中で、皆さんと一緒に楽しく過ごしていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



ワークショップの概要

農的活動〔収穫作業：サツマイモ、ヤーコン、ヤマイモ(ヤムイモ)、ショウガ〕



サツマイモの収穫は順調です。続々と収穫しています。

初めて見るヤーコンに、皆さん、びっくりです。

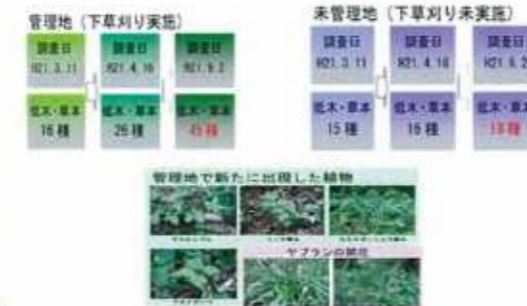
ショウガの香りが広がります。

ヤマイモです。普段見るナガイモとは形が随分違います。



里山管理体験「下草刈り」の成果確認

植生モニタリング調査の結果



農大 麻生教授からの講評

3月に「下草刈り」をする以前は、アオキですとか、アズマネザサが優先している状態でした。アズマネザサとかアオキ等の優勢種を刈りますと、光が入って、それまで育たなかった植物が育つようになります。植生モニタリング調査の結果からも分かる様に、種数が増えて、多様性が向上することになります。よって、定期的に「下草刈り」をして、様々な植物が生える状態に保っていくということが大事だろうと思います。また、今、ここに再度アオキが出て来ていますが、この冬場にもう一回、アオキを刈りますと、これに再度ダメージがかって、もっとアオキが弱くなって、他の植物が出てくると思います。それと、この土地を見ますと、多分、何年か前に一度、畑として造成したところだと思います。一方、造成していない土地には、「埋土種子」と言って、何十年前の種が眠っていたり、あるいは、キンラン、ギンラン等が細々と我慢しながら生きていたりします。そこで「下草刈り」を行いますと、もっと珍しい植物が出てくるということもあると思います。これからも楽しみにしながら定期的に管理をしていきたいと思っております。

懇親会の様子



【第6回】 ●日 時:平成22年3月13日(土) 10:30~15:10 ●場 所:「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」内、吉沢公民館 ●参加者:総数54名(地元、農大、平塚市、事務局ほか)

●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』あいさつ
(協議会 猪俣会長)

3月に入って雪が舞ったり、非常に暑い日、寒い日が不順でしたが晴れました。風が強いですが、お休みのところ、大勢の皆さんに参加してもらえて、第6回ワークショップが開催できることをお礼申し上げます。

このワークショップは先日、協議会の報告がありましたけれども、そのとき講演を頂きました麻生教授のお勤めになつて東京農業大学と協働でやっております。また今回も平塚市まちづくり政策部から、ご参加頂いております。みなさんと一緒に、盛り沢山の予定がございますけれども、最後に、ゆるぎ地区の開発に向けて一歩一歩進みたいと思っております。

第3回のワークショップのときに、東京農大の学生さんが、こういうところでお弁当を食べたら非常に美味しいでしょうね、という話がありました。今日は風が強いですが、汗をかいた後、景色の良いところでの昼食を予定しております。

最後まで皆さん頑張って頂いて、思い出になる様な1日にしてください。では、宜しくお願いします。



●東京農業大学あいさつ(農大 麻生教授)

おはようございます。こここのところ天気が悪かったのに、今日は久々に晴れました。この中に晴れ男、晴れ女が沢山いらっしゃるのではないかと思います。本当に、ゆるぎ地区の活動のできあがりがよくて、本当にうれしく思っています。今日は、本年度のまとめのワークショップということでもありますが、もう一つ、散策路を整備しようということでもあります。この間の私の講演でもお話ししましたが、こういう散策路、私は「里道」という言葉が好きなのですが、フットパスともいいますが、こういうものを整備することは、相当、地域にとって、特に里山地域にすごく大事なことです。素晴らしい資源があっても、アクセスできなければPRされないということで、誰もがアクセスできて、散策路をとり囲むネットワークをしっかりとっていくことが、地域の活性化にとって大事でなろうかと思っております。また、地域レベルだけでなく、将来的には周辺までネットワークが拡大していければと思います。そういう活動の、今日は第一歩ということで、地域の方々と一緒に進めていきたいと思っております。そんなスタンスで参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。



●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 久永部長)

おはようございます。今回、このワークショップも6回目ということですが、このまちづくり協議会は、地域のまちづくりに始終活動をされている中の、一環として、このワークショップが位置付けられているかと思っております。今後のまちづくりを進めていく上で、このワークショップが目指す里地・里山の復活と、地域のポテンシャルを上げていこうということだと思っております。これが無いとなかなか進まないと思っております。ですから、幸いにも、このワークショップは、東京農大と日本土地建物さんの高いマネジメント力等、非常に恵まれた環境になっていると思っております。これから新たな自然の発見等、また、その自然、里山を磨いて、より地域の価値を高めるということは、将来のまちづくりにつながっていくのだと思っております。

今日はあいにくの風ですが、皆様方が目指すまちづくりを進めていくに当たっては、こういった風の強い日もあろうかと思っております。この風に負けず、皆様の目的とするものが達成できるように皆さんで一致団結していきたいと思っております。この風にも負けず、今日は色々春が実感できるような山が見えるのではないかと楽しみにしております。今後とも、宜しくお願いします。



ワークショップの概要

「散策路整備活動」の様子

「散策路整備活動」を実施しました。



【整備前の状況】



【整備後の状況】



ササ刈りの様子



下草刈りの様子



朽木撤去の様子



倒木撤去の様子



落葉清掃、コンポスター作りの様子

「下草刈り」成果確認及び2回目の実施

昨年の成果確認



イチヤクソウ

下草刈りの様子



下草刈りの様子

東京農業大学 麻生教授からの講評

ここは去年の冬場に初めて下草刈をしました。しばらく、放棄されていまして、アオキ類がかなり繁殖していたのですが、それを除去しました。しかし、それがまた1年で、根が残っているので、ヒコバイが出てきています。

昔はこういう形でササの根や低木などを刈って、冬場に落ち葉を掻いて、それを堆肥にして、畑に入れていました。その結果として、ササやアオキといった強い植物が除去されますので、弱い植物、今、イチヤクソウが確認されましたが、このような素晴らしいのがでてきています。あと、キンラン、キンラン、シュンランなどの弱い植物がでてくるのではないのでしょうか。種の多様性としては豊かになってきているといえます。去年下草刈をしたアオキが出てきていますけれども、これを刈ってあげれば、ますますこういう植物が出てくるのではないかと思います。いきなり出てくるのではなくて、下で生育はしていたと思います。耐えながら、ひっそり生きながらえていたのが、邪魔なものもなくなって、元を取り戻して、こういう風に出てくる。そんな風に感じられます。

散策路マップ作りに向けた散策・ワークショップ1年間の振り返り

